

第7分科会「研究・研修」について発表いたします。

第7分科会では、研究課題を「学校の教育力を向上させる研究・研修の推進における校長の在り方」とし、教職員の資質や能力の向上を図り、展望や参画意識をもたせ、学校の教育力を向上させる研究・研修体制の確立と、その推進について、具体的方策等を明らかにしていきます。

研究発表については、旭川地区の旭川市立近文第一小学校 佐藤栄一校長から、「これからの校内研修の在り方と教職員一人一人の資質・能力を高める方策」と題して提言がありました。

旭川市小学校長会では、各学校の校内研修に関わり、校長が重視すべき方向性と果たすべき役割について2か年計画で研究を推進し、今年度が最終年次の提言となりました。

昨年度の1年次は、アンケート調査により、校長が重視すべき方向性について、2つの大きな研究の視点に基づき、合わせて8つの方策が提案され、今年度の2年次は、昨年度末のアンケート調査による8つの方策に関わる取組の成果と、今年度における具体的な実践事例について発表されました。

12名の方から発表に関わる感想・意見及び質問が出されました。いただいた質問とそれについての回答は、今後、分科会の記録としてまとめて掲載される予定です。

誌上交流後の成果として、研究の視点1「これからの校内研修を充実する方策」に関わっては、①仮説検証型研修の見直し、②働き方改革に関わる校内研修の在り方、研究の視点2「教職員一人一人の資質・能力を高める方策」に関わっては、①ベテランを活性化する仕組み、②キャリアステージに応じた資質・能力の向上、などについての取組が挙げられました。

今後の課題としては、①「授業改善型」の研修のよさとして、授業スタイルの構築や授業の技能面での即効性などが考えられる一方で、「仮説検証型」研修に比べて、単元を通した指導など教科の専門性や教材研究の深まりという部分の研修に課題が残るので考慮する必要がある。②学校の教育力を向上させるためには、教職員個々の資質・能力の向上が不可欠である。このことについて更に歩みを進めるとすれば、個々の研修を充実するだけでなく、学校の組織そのものについて「ベテランが活性化」し、「若手が育つ」体制に変えていく必要があり、そのための校長の関与について模索していきたい、などが挙げられました。

今年度は、いろいろな制限の中で、初めての誌上交流という形になりましたが、たくさんのご意見をいただくことができ、次年度に繋がる交流とすることができたと思います。関係された皆様、本当にお疲れ様でした。以上で、第7分科会の発表を終わります。